

安保法案の強行採決に抗議し、衆議院の解散・総選挙を求める
— 声明 —

2015年9月24日
市民政党「草の根」
代表 井原勝介

衆議院に続いて、参議院においても、安保法案の強行採決が行われた。

国会審議において大きな論点となったのは、もちろん、この法案の違憲性であり、戦争に巻き込まれるのではないかという不安である。

これに対して、政府は、国民の理解を得るために丁寧な説明に努めるとしていたが、実際には、中国や北朝鮮の脅威を煽るばかりで、国民の疑問や不安に真摯に向き合うものではなかった。

この間、国会前を初めとして、全国各地で連日のようにデモや集会などの抗議行動が行われている。特に、若者や女性たちが積極的に声を上げ始めている。最近の世論調査でも、圧倒的多数が政府の説明は不十分であるとして法案の今国会での成立に反対している。もはや、民意は明らかである。

憲法学者、元内閣法制局長官、そして元最高裁長官までも、明確に憲法違反と断じる中、国民の声を無視して、法案の強行採決を行ったことは、民主主義と立憲主義を冒涇する許しがたい暴挙であり、強硬に抗議するものである。

この国の主権者として、自らの政府を選択する権利を行使することができるよう、内閣総理大臣、安倍晋三氏に要求する。

「速やかな衆議院の解散と総選挙により、民意を問うべし」